



題字は松井岳洋筆

詩吟との出会い！そして今！

経理部長 根岸 岳啓



令和元年の幕が開きました。

4月30日葉山町主催による奉祝行事が『しおさい公園』で計画されていたが生憎の雨で中止となりました。我が紫陽花支部ではみんな集る予定だった事もあり急遽夕食会となりました。教室が火曜日(昼)、水曜日(夜)に分かれていることもあり、仲間と共にする食事は楽しく意義ある時として過ごしました。又、昼教室では真剣にお稽古した2時間が過ぎると、教室の目の前にある「スタバ」から仕入れた飲み物で「お茶」。先ずは吟の反省を少々、まじめな話あり、お腹を抱えての笑いあり、と話が尽きず心通わす時として過ごしています。更には春、秋の審査会が終われば祝合格と称して火、水合同の談話の場が作られ、吟詠談義に花を咲かせています。

勉強は真剣に、みんな仲良く、楽しい詩吟をとの紫陽花支部の雰囲気の中で共に勉強できる幸せ

No. 449
令和元年7月

発行

(公社) 日本詩吟学院 認可

碩心会

発行者 有友岳濤

編集者 森 祐風

神奈川県三浦郡葉山町堀内 2021

Tel/Fax.046-875-0507

URL http://sekishin.holy.jp

感でいっぱい毎日です。

杉山先生から紫陽花支部を預かって6年、戸惑いながらの教室でしたが、今では生徒の皆さんとの絆は固く何物にも代えがたいものとなりました。人見知りする私を温かく迎え入れてくれた吟歴長い生徒さん、そして私の時代に入会した生徒さんはほぼ半々ですが、皆さんすべてが私の「宝物」です。

思えば、結婚して同居の義両親が毎週金曜日の夜になると詩吟のお稽古に通い、査定前になると詩文を壁に貼って懸命に暗記していたのが思い起こされます。そんな折私に女の子が誕生しました。大喜びでの両親は5歳になったら詩舞を習わせることに楽しみにしていました。ある日今は亡き白井先生のもとに親子で連れていかれました。それが詩吟との出会いでありました。それから数十年多くの先輩、先生、そして仲間が私を詩吟大好き人間に育ててくれました。有難く感謝しております。今は詩吟が私の人生を心豊かにしてくれています。詩吟に「感謝」です。現在は経理を担当させて頂いていますが、これからも微力ですが碩心会発展の為に尽くして参りたいと思っております。

行事予定

夏季吟道大学講座

日時 7月20日(土) 開会10時

7月21日(日) 開会9時30分

場所 メルパルクホール東京

和歌吟法講座

日時 7月29日(月) 開会12時30分

場所 横須賀市はまゆう会館

第7回全国青年吟道大会

日時 8月3日(土) 開会11時

場所 小岩アーバンプラザ

碩心会夏季吟道講座

日時 8月22日(木) 開会12時30分

場所 葉山町福祉文化会館

第10回尚齒会神奈川吟詠大会

日時 9月8日(日) 開会10時

場所 横浜市神奈川公会堂

碩心会秋季審査会

日時 9月14日(土)

場所 葉山町福祉文化会館

神静地区吟道講座

日時 9月22日(日) 開会10時

場所 三島市民文化会館

全国優秀吟者吟道大会

日時 9月23日(月) 開会10時

場所 メルパルク東京

相州岳風連合吟詠大会

日時 10月23日(水) 開会10時15分

場所 逗子文化プラザ

第38回碩心会吟詠温習会を顧みて

6月21日 実行委員長 中山辰風

実行委員長として初めての仕事。前年のスケジュール管理の勉強からのスタートでした。

○12月1日 会場確保

会館前に5時から並ぶことを企画部3人で申し合わせをしましたが、寒風吹くなか1時間が限度と思い我が支部から1人応援を得て4人体制で挑み会場を確保しました。原始的かもしれないけれど、役場が抑えた日以外なら、一番に並べば確実に取れると言う論理が強いようです。

余談ですが来年の初吟会は1月の土、日では19日(日)だけしか一般開放日がありませんでしたので、抽選日の7月1日には3時30分から並び何とか確保しました。(前年は1月の一般開放日がゼロで止む無く2月に初吟会となり苦評を呈しました。)

○3月18日 実行計画を常任理事会に提案

温習会はおさらい会であるとすれば、先ずはコンセプト。なるべく多くの人が好きな吟題でのびのびと吟じて頂く事を根幹に企画しました。この為に前年あった吟題を限定した三行詩の競吟をやめて自由に選んだ吟(題)を独吟、或いは連吟で発表する事を方針として常任理事会に提案しました。元より吟力アップの源は競い合うことである事も脳裏にコンクールも取り入れたのは当然です。併せて高齢化する現状に鑑み独吟には演台を用意しました。

○そして当日

自分が選んで練磨した吟を十分に発表出来た人、心ならずも充分でなかった方、或いは競吟で上位入賞したチーム、捲土重来を期した組等結果はそれぞれだったかも知れません。ただ、責任を果たせたと考える事は一人のケガもなく幕を閉じられたことでもあります。

○思うこと二つ

一つは相当数の欠席者があった事です。気候変動もあり私達年代は体調管理が難しくなってきたことも認識し、様々な施策、イベントの在り方も考えていく必要があるかも知れない、そんな気がしました。

二つには、一般の方のご来場に備え、ご芳名帳を受付に用意しましたがわずかな人数でした。勿論記帳は無くとも多くの方が鑑賞に見えたかもしませんが、みんなが更に力を合わせて詩吟文化を周知普及していくことも大事かなと思った温習会でありました。

第28回神奈川岳風連合会 青少年吟詠大会

青少年部副部長 常盤 仙風

6月9日(土) 横浜市金沢公会堂に於いて標記大会が開催された。開会が告げられると幼年・小学・中学・高校生を代表して5名が壇上に並ぶ。マイクの前に立ったのは幼稚園児。「今日は私たちの大会です。お父さん お母さん! おじいちゃん おばあちゃん! かいじょうのみなさん! おうえん よろしくおねがいします!」声を張り上げて開会宣言。満場の雰囲気を一瞬にわしづかみ、応援のスイッチが入る。

独吟コンクールの出場者は53名。

先生の期待やご家族の応援を背に何れの青少年吟士も立派な吟詠、誰ひとり絶句するシーンも無い。碩心会からは「高校生」の部に澤木翔太君が出場、惜しくも賞を逸したが次世代を担う飛躍が期待される。また、吉見恵理さんと春流君が「家族吟詠」に出場、可憐なしぐさに微笑を誘う。

この大会は受付から舞台、進行に至るまで、総て子供たちの手で行われ大人は裏方。主催者挨拶で内山岳青総本部理事は「子供の素直な表現、可能性に大人は敵わない」と期待の讃辞。朝の天気は梅雨模様ながら帰途の気分は晴れやか、思わず口遊む「朗詠 新田興」の詩文。

声氣堂堂志可尋 高低長短又淵深
朗吟今古先賢賦 一片千秋天地心



神静地区師範吟詠大会

酔吟支部 品川榮岳



われました。

5月25日(土)、小田原市民会館大ホールに於いて、標記大会が開催されました。午前に師範吟詠、午後に合吟競吟と講話会が行

われました。師範吟詠には、碩心会から準師範の部に黒田岳慶さんが「後夜聞佛法僧鳥(空海)」と小泉岳貴さんが「田園座興(伊藤東涯)」、師範の部に磯村岳朋さんが「憶母(頼山陽)」を、情感を込めて詠じあげていました。

大会会長挨拶では、大山岳荘先生が祖宗範木村岳風先生の生誕120周年の記念すべき今年、一人でも多くの指導者、後継者が育成され、ひとつでも多くの教場を開くことが、吟道の隆盛につながるというお話がありました。

合吟競吟には、碩心会から自分を含めた10人が挑み、半年間の練習の成果を發揮すべく、「松前城下作(長尾秋水)」を、声を揃えて高らかに吟じました。ご指導下さった上村岳章先生より、今まで練習してきた中で一番良い出来であったとの評を頂き、我々の心に淡い期待がよぎりました。しかし、結果発表で審査委員長内山岳青先生から我々の番号は聞くことが出来ませんでした。

最後の講話会、講師大山岳荘理事長による「宿新潟(吉田松陰)」は、感情のこもった吟詠と具体的な解説による、吉田松陰という偉人の人となり

を思い起こさせる素晴らしいものでした。

第7回全国俳諧歌吟詠大会

7月2日 長野県諏訪市文化センター

本大会には、碩心会から総勢16名(男子合吟5名、女子独吟1名、女子競吟10名)が参加した。前日の7月1日に上諏訪駅に下り立ち2日の大会に備え、ホテルのチェックインの前に個々で近場を散策。その後、カラオケボックスを借りて16名で最後の仕上げをした。

俳諧歌は、日本詩吟学院に於いてまだ新しい分野で、祖宗範の木村岳風先生生誕の地である長野県を皮切りに全国に広まりつつある。毎年この地で研修会が行われ、7月1日の岳風忌の翌日俳諧歌の大会が開かれている。俳諧歌は「狂歌」と称した時代もあった。現在、私たちは一茶の残した作品の多くを、和歌詠みの決めごとに従って、滑稽の発想、言葉遊びの技を学びつつ吟じている。まだまだ馴染みの少ない俳諧歌は「滑稽味」を如何に出して吟ずるか体得できていないのが実情である。

ところで、今年度第7回目の大会から競吟・合吟の題が変わった。第6回までは「老木桜」であったが、今年から「子を思ふ」になった。碩心会として昨年初めて競吟・合吟に参加。今年もほぼ昨年と同じメンバーで申し込み。3月56月の月曜日に上村先生の指導のもと練習に励んだ。週1回全員参加で練習することが難しい状況もあったが、個々の努力があつて大会当日は無事全員参加して

吟じることが出来た。

当日出吟は、独吟49、合吟21、競吟・独吟が58、競吟・合吟が18であった。ここでの大会の特徴は、地元企業の後押しがあり、いろいろ特徴ある賞が設けられている。東北・長野・北陸と北の地方の方やグループが大きな賞を多く獲得。神静地区は苦戦を強いられたが、さがみ岳風会と駿河岳風会が競吟・合吟で特別賞を戴くことができた。

1泊2日の道中での親睦が深まり、多くの思い出が残った。今後、碩心会の中で取り組みが進み「旅をしながら俳諧歌を学び・楽しむことができた良いな」と思いながら帰路についた。(小菅岳倅)

有友会長湘南ビーチFMに出演して

6月19日(水)会長が湘南ビーチFMの番組に出演。森川いつみパーソナリティーと対談し、碩心会の活動について紹介した。

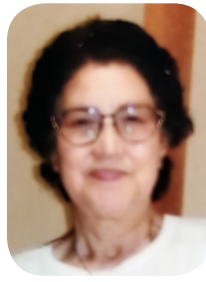
碩心会は現在183名の会員が、葉山8、逗子11の教場で活動していること。小中高の青少年も少ないが、いること。詩吟は漢詩だけでなく和歌・俳句・俳諧歌・近代詩等も吟ずること。詩吟をやっているところは、声を出すことにより健康に良いこと。年齢と共に声が出なくなるが、詩吟をやつて一二年すると見違えるように声が出るようになること。さらに、温



習会、レッツ詩吟、夏期吟道講座、ホームページのことなどが紹介された。番組の音声は碩心会のホームページにて試聴して下さい。(森 晶風)

令和に新総伝者(2名)

幸和支部 田口岳綾



ちよつとしたご縁で詩吟を始めて十数年。趣味で始めた詩吟、今では私にとって詩吟はラ

イフスタイルの一部です。

この度総伝のお話を頂き、自分へのご褒美としてお受けすることに致しました。

御指導を下さいました先生方、大切な教室の友人に感謝しつつ、一日でも長く健康で吟の道を精進していきたいと願っています。



紫陽花支部 水留岳裕

この度は総伝位を頂き誠にありがとうございます。私が詩吟を始めたのは25年前、故矢嶋先生

に勧められ入会いたしました。詩吟はむずかしい印象がありとても不安でした。でも、ここまで長く詩吟を続けられたのも、先生方諸先輩教室の皆様のお陰だと心より感謝しております。詩吟は歴史を知り声を出し健康にも良いと痛感しております。まだまだ吟は未熟ですが、これからも初心に戻り日々努力してまいりますのでどう

役員合同会議開かれる

6月4日 葉山港管理事務所

ぞ宜しくお願い致します。

令和元年度の第1回目役員合同会議が正副会長、顧問、常任理事、監事、参与、及び参事の出席の下開催された。

有友会長よりこれまでの活動状況について次の報告がなされた。

- ① 功労者表彰の二人の予定者の件
 - ② 相州岳風連合の組織変更の件
 - ③ 神奈川誠吟会の会長、副会長変更の件
 - ④ 認証団体として「よこすか海星吟詠会」が神奈川県岳風連合会に加入する件
 - ⑤ 「吟道修学院」第10期生として菊池岳世さんが卒業した件
 - ⑥ 碩心会主管の神静地区師範吟詠大会が滞りなく終了した件
- 引き続き行事予定の報告と、今後の課題として次の2点が取上げられた。

昇伝段位認許

(令和元年7月1日付)

九段 (4名)	77 坂上城岳	78 吉田千岳
79 田邊無岳	80 乗松力岳	
十段 (5名)	70 根岸奏岳	71 松木之岳
72 吉原益岳	73 石渡美岳	74 佐藤夫岳
総伝 (2名)	55 水留岳裕	58 田口岳綾

①「審査課題吟集」の改定プロジェクト

② 会員10%増加対策

各部長、地区長の報告後、次の質疑・要望等があった。

① 各支部への連絡網の整備と連絡の徹底。

② 碩心会会員以外にもそれと分かる名称の使用 (例: 温習会↓おさらい会)

森 祐風

高橋岳之さん合祀される

瀬朗支部 磯村 岳朋

令和元年7月1日、岳風忌にて高橋岳之さん(前副会長)が吟魂碑に納められました。

長野県地藏寺山の祖宗範木村岳風先生と大勢の同志と共に祀られ、未来永劫、吟魂碑の中で守られる事でしょう。吟友と共に安らか成れ。

編集後記

今年の俳諧歌吟大会の競吟合吟の部の課題吟は「子を思ふ」であった。籠伏せされた巢鳥を思い「聞やかわゆい、かわゆい」と18チームが代わる代わる鳴きあかして吟を競い合った。七つの子を山にもつカラスの「かわい、かわい」と違って「かわいそう、かわいそう」と鳴ける哀れさの表現が勝負の決め手になったのだろうか。

令和元年7月現在会員数

逗子地区	99名
葉山地区	84名
合計	183名

会員のうごき

6月1日付け) 193 山本実(東伏見) 葉山町堀内 紹介者 上村岳章